

令和2年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

学園の基本理念は「夢の創造」・「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ (excellent college) を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。学園は他の服飾系専門学校と一線を画し、独自の価値観と行動様式を持ち、桜丘学園らしさ、固有性を積極的に持つことである。また、教育理念は「学生一人ひとりを大切にし、愛情をもってきめ細やかな指導で、専門知識・技能の習得および人間性豊かな人材を育成する」。教育理念の根本は普遍的なものであるが、学園の教育目的やその目的を達成する人材育成は時代の変化に対応する必要がある。現在ファッション業界のみならず産業界全体にデジタル化の流れが急加速している。ファッション小売業も顧客との接点をリアル店舗、アプリからeコマースに至るまで最適な小売り体験を提供するオムニチャンネル化への進化から、AI（人工知能）を活用したマーケティング、マーチャンダイジング。また、デジタル化されたものがインターネットを介して伝達されるIoT化へと加速度的に変化している。学園に於いてもICT教育を推進することにより、この時代の変化に対応する人材育成が次のステージに向けての最重要タスクである。今後はファッションの分野に留まらず認可を受けた第1分野（工業）デジタル専門課程を開設することにより、学園の教育の幅を広げ産業界に貢献する教育機関、人材育成を目的とする。

基準2. 学校運営

学園の基本理念・教育理念に基づき、事業年度毎に事業計画を作成し、理事会、評議員会の承認のもと、教職員全体会議で全教職員に周知徹底され、計画的に実践されている。教育事業の根幹は教務部が担い、学校全体のプラットフォームは事務部が整える。学校継続の推進力となる学生募集、広報活動は企画部が担当して各部が責任をもち連携して事業にあたる。また新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け学内の行事は円滑に実施できなかったが、実施可能な行事に関しては、各行事を学内プロジェクトと位置付け、プロジェクト委員を任命し、校長、教務部長、事務部長を中心にプロジェクトリーダーと連携して感染対策を徹底し事業運営にあたる。カリキュラムの編成に関しては、各教職員、外部講師、業界関係者との情報収集により、業界のニーズに即したカリキュラム編成を実践する。学園組織は年度毎に見直し、実際の学園運営と組織体との整合性のチェックが行われている。各教職員の行動計画や情報提供はインターネット上に公開し、効率よく機能的に運用できる様に管理、提供されている。

基準 3. 教育活動

平成28年に導入した選択制カリキュラムも5年が経過。ファッション業界のニーズに合わせてながらカリキュラムの編成を変えてきた。ファッションクリエイト科、ファッションビジネス科と学科別に縦割りになるカリキュラム構成を選択制にすることで全ての学科で横断的に受講できる体制で学生交流や学びの幅を広げることができる。2年生、3年生からの選択であるため、ファッション業界の第一線で活躍している有識者を招聘することにより、高度な授業が展開され学生の満足度の高い。学習の成果である一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定2級、3級対策も充実し、受験合格率も高い。また、今後ますます重要度がます、イラストレーター、フォトショップのソフトの習熟度も少人数制での指導により大きな成果を上げている。また、アパレルCADに関してはインターナショナルなブランドで現役で活躍しているパタンナーを講師に迎えより実践的な教育が推進されている。

基準 4. 学修成果

学習の成果を出来るだけ可視化することを目的として学園では必須検定として受験している、一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定3級1次の筆記試験及び2次の実技試験ともに合格率が100%と優秀な成績であった。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け日程が変動したが、2年生が受験するファッション販売能力検定2級の合格率は40%、だったが1年生が受験する3級は合格率が100%と優秀な成績を収めた。2年生が受験するファッションビジネス能力検定2級の合格率は33%と全国平均を下回ったが、1年生が受験する3級は合格率100%と優秀な成績を収めた。また、必須検定の指定では無いが学習意欲が高く受験した、

フォーマルスペシャリスト検定準2級の合格率は92%、色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1の合格率は100%、モジュール2も75%と高い合格率を確保した。検定以外にも論理的思考や表現力、説得力など学生個々の能力向上を目的として1年生ではマーチャンダイジング、ファッション画、コンピュータワークで成果をプレゼンテーション。2年生、3年生はファッションデザイン、ブランドクリエイションで成果発表を行う。

また学内2大コンテストであるファッションビジネス科2年生を対象とするFCSプロモーションコンテストは10月に開催し、2月開催のファッションショーでの作品を評価するFCSファッションコンテストは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け学内のみで審査をし、学習の成果はLIVE配信を中心に行った。

就職支援に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、募集企業が激減。教員がインターネット上で求人を検索して学生に紹介し就職につなげた。また、1年生へは就職支援企業の協力を得て、学内でオンラインで企業研究会を開催し、企業情報、職種情報、働く事の意義などの講義の情報を提供し、就職活動をサポートした。

基準 5. 学生支援

現在日本では2.6人に1人が奨学金を利用して進学している環境下、当学園においても経済的な不安、負担を感じながら学業とアルバイトを両立し就学している学生が散見される。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け家庭の収入やアルバイトの収入が減少して就学の継続が困難な学生に対して高等教育の就学支援制度の認定を受け経済的に学生をサポートする体制を整えている。また、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響での自粛など学業以外の過度なストレスが学業の遅れ、遅刻欠席過多、退学等に発展する恐れがあるため、個々の学生の生活環境を正確に把握することで防止につながる。学園では前期、後期の期初に担任が受け持ち学生に対して時間をかけて個別面談を実施している。この個別面談で学生生活での問題点や学外の生活、家庭環境での問題を早期に把握し、学習の停滞や生活の乱れ、退学などを防ぐ対策を講じている。この個別面談の情報は全ての教職員で個人情報厳格に管理された上で共有され、全ての教職員が同様の対応が取れるよう整備されている。また、専門学校は職業教育が使命であるため全学生の就職を目指し、就職情報の提供や個別の面談、就職指導を実施して大きな成果を上げている。また、社会人としての意識付けのためにボランティア活動に参加するなど指導を行っている。その他、学内行事に於いても、学生内で担当の係を決め、学生の自主性を大切に行事を運営することを心掛け、リーダーシップ、協調性、計画性などを高められるよう指導している。

基準 6. 教育環境

新型コロナウイルスの感染対策は、朝の専門業者による全館清掃、教職員による午後の一斉清掃により清潔に保たれている。各教室に消毒液を設置し、定期的に換気を行い感染対策を講じている。また、テーブル間にアクリルボードを設置、講師へのフェイスガード、マウスガードの配布、講義用のマイク等の音響設備を整えるなど飛沫感染対策も徹底して行った。オンラインでの企業研究や就職活動用に学内のパソコン用にカメラを準備して学生の活動をサポートした。

基準 7. 学生の募集と受入れ

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて対面形式での学生募集に大幅に制限がかかった。学校情報の提供はインターネットを中心に行い、オンライン説明会、AO入学制度に関してはWEBエントリーシステム、WEB面接システムを導入し利便性を高めた。入学対象者は複数校を比較検討することができないのでカリキュラムの内容、学びの環境、教員との密度の高さが高度な知識、技術が習得できる利点であることを丁寧に説明し、高い出願率を誇っている。入学対象者の進路希望状況を一元管理しデータベース化する事で教職員全員で共有し、学生募集にあたっては学内全教職員で対応できる体制を整えている。

基準 8. 財務

学生納付金収入は安定しているが、もう一段の入学者確保が必要である。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて学内及び学外での行事等に制限があった為、全体的に経費は削減傾向にあった。流動資産の金銭信託は含み損が増加傾向にあり、資産が毀損しているので計画的に改善することが必要との認識から中長期的に改善する方策を講じ始め成果を上げている。

基準 9. 法令等の遵守

警視庁、東京都、千代田区からの情報に関しては、必要に応じて教職員は朝礼及び全体会議、教員会議で伝達され、学生に於いては午前午後のホームルールで伝達されている。学生に対しては法令違反を未然に防ぐため、講習会や冊子の配布を適切に実施している。また、教職員の修業関係関連規則は全てを見直し、現行法令に即して修正を加え、パソコン上の共有フォルダーに保存されいつでも閲覧できる状態を継続。

基準 10. 社会貢献・地域貢献

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて学外での活動が積極的に行えなかった。外出を自粛するなど行動制限により学生個々が注意を払い、感染リスクを減らすことが新型コロナウイルスの早期収束に向けて責任ある行動であるため、その啓蒙活動を徹底した。